

## 【研究概要】

新型コロナウイルス感染防止策の複合有効性についての誤認

(論文タイトル: Are More Behavioral Measures Perceived as Less Effective Against COVID-19?)

中谷内 一也(同志社大学 心理学部 教授)

横井 良典(京都橘大学 健康科学部 助教)

## 【背景】

- ・一般に症状が軽くなってきていても、感染力が高くなる方向でウィルスが変異すると、感染者が拡大し、それに応じて重症者や死者も増える。
- ・一般に症状が軽くなってきていても、感染しないに越したことはない。

→ そのためには行動的対策、すなわち、手指の消毒や他者の飛沫を避けるなどして感染リスクを抑止する必要があります。

行動的対策は複数を実施することで有効性が高まります。

しかし、心理学的には、複合的有効性について判断に誤りが生じる可能性が考えられます。

## 【 本研究の問題 】

例えば、大声コンテストがあったとして、声の大きい人と声の小さい人の2人ペアの成績は、同じ声の大きい人1人だけの成績を上回るはずです。声の小さい人の声量が小さいとしても、ないよりはマシですから。

一方、歌唱力コンテストがあったとして、歌の上手な人と下手な人の2人ペアの成績は、同じ歌の上手な人ソロの成績に劣るでしょう。下手な人が足を引っ張りますから。

では問題です。

新型コロナ対策の有効性は、大声コンテスト or 歌唱力コンテスト？

## 【 今回の研究から得られた答え 】

### 現実の有効性

大声コンテストに近いか、あるいは、相乗効果があるのなら声の小さな人でさえ貢献はたいへん大きなものになります。

当然、有効な対策ひとつだけ実行するよりも、他の対策も組み合わせて実行した方が、新型コロナ対策としては効果が上がります。

### 主観的な有効性の判断

ところが、主観的には、歌唱力コンテストの評価方式が新型コロナ対策の複合実施の評価に使われてしまいやすいようです。

つまり、有効性の低い対策を実行してしまうと、有効性の高い対策の効果を薄めてしまうと誤解されやすいということです。

以降、論文中で発表した4研究のうちの2つについて、方法や結果を示します。

## 研究2の実験概要と結果

実験参加者: 100人の日本に居住する成人。オンライン調査会社の登録モニターから募集。

実験手続き: 実験参加者はインターネットの実験サイトにアクセスし、質問に回答。

質問は;

(1)まず、8種の行動的対策のそれぞれの有効性評価を尋ねる

(2)次に、それら全部を実行した場合の有効性評価を尋ねる

実験時期: 2020年11月

質問内容: 次のスライド2枚のとおり

Q1. 次のそれぞれの行為によって、自分が新型コロナに感染する確率をどれくらい下げられると思いますか？

「してもしなくても同じ」を0%、「感染を確実に防げる」を100%として、つまり防護力が強いほど100%に近くなるように、0%～100%の範囲でお答え下さい。

- a. 外出時にマスクを着用する
- b. こまめに水道水で手を洗う
- c. こまめにアルコール消毒液で手を洗う
- d. こまめにうがいをする
- e. 密集場所を避ける
- f. 会話時には2m程度の距離を置く
- g. こまめに換気する
- h. 自宅や職場のドアノブをアルコール消毒する

Q2.あなたは上のすべてを実施した場合、自分が新型コロナに感染する確率をどれくらい下げられると思いますか？

つまり、「外出時にはマスクを着用し、こまめに水道水やアルコール消毒液での手洗い、うがいを行い、密集、密接、密閉を避け、自宅や職場のドアノブをアルコール消毒する」という生活を送ることで、新型コロナへの感染する可能性をどれくらい下げられると思いますか？

同じく、「してもしなくても同じ」を0%、「感染を確実に防げる」を100%として、つまり防護力が強いほど100%に近くなるように、0%～100%の範囲でお答え下さい。

## 【結果】

参加者個人ごとに；

最も有効性が高いと評価した対策の有効性得点を第1対策得点、  
2番目に有効性が高いと評価した対策の有効性得点を第2対策得点、  
3番目に有効性が高いと評価した対策の有効性得点を第3対策得点、  
・  
・

8番目(最下位)の有効性と評価した対策の有効性得点を第8対策得点とします。

また、全部実行した場合の評価を全体実施得点とします。各平均値を下表に。

表2 各対策得点の平均値と全部を実施した場合の得点の平均値（カッコ内は標準偏差）

第1対策	第2対策	第3対策	第4対策	第5対策	第6対策	第7対策	第8対策	全体実施
84.37 (20.52)	77.95 (23.08)	70.85 (26.71)	65.87 (27.29)	58.55 (27.73)	52.62 (28.46)	44.79 (29.26)	34.81 (28.91)	71.54 (24.33)

全部を実施した場合の得点は、第1対策得点を(第2対策得点も)下回りました



## 研究4の実験概要と結果

実験参加者: 研究2と同様の方法で募集した115名。重複はなし。

実験手続き: 実験の枠組みは研究2と同じ。ただし、8種全部を実施した場合の評価を求める前に「複数の対策を実行することで、感染防止の効果も積み上げられます」とのメッセージを提示。狙いは、シンプルに複合有効性を伝えることの影響をみるため。

実験時期: 2020年11月半ば

質問内容: 上述のメッセージを加えた以外は研究2とまったく同じ

## 【結果】

表4 「複数の対策を実行することで、感染防止の効果も積み上げられます」と伝えて研究2と同じ実験を行った場合の結果（カッコ内は標準偏差）

第1対策	第2対策	第3対策	第4対策	第5対策	第6対策	第7対策	第8対策	全体実施
85.85 (19.11)	76.78 (25.15)	71.30 (26.47)	65.89 (27.16)	60.96 (28.52)	53.78 (29.26)	46.17 (29.20)	36.81 (29.11)	77.55 (17.43)

複数の対策実施によって効果は積み上げられることを伝えても、全部を実施した場合の得点は、第1対策得点を下回りました。

しかし;

研究4の全部実施の得点(77.55)は、研究2のそれ(71.54)を有意に上回りました。

つまり;

判断の誤りを完全に払拭できないものの、複数の対策の有効性は積み上がることを伝えることで、複数実施に対する評価は向上しました。

## 【本研究の制約(要注意)】

本研究でとりあげたのは有効性評価のみです。

対策を行うかどうかは有効性だけでなく、コスト(金銭や労力、犠牲になることがら)や実行可能性との兼ね合いで判断すべきですし、実際、人はそうしています。

したがって、今回の成果から「万難を排してすべての対策を実施するよう人々に伝えるべき」というのは飛躍に過ぎます。

ただし、「複数の対策を組み合わせた方が感染リスクは下がる」ことは理解しておくべきでしょう。コストが低いなら複数の対策を行っても損にはなりません。

## 【最後に一言】

たいていのリスクにおいて「これで万事解決」という対策はありません。実行可能な対策を重ねてリスク削減を図る姿勢が必要です。

「ひとつの行為で問題解決」と過信する、単一行動バイアスに注意しましょう。